

寄稿

世界の樹木シリーズ (タスマニア)

樹木医 有田和實

世界の樹木シリーズ第三弾。第一弾は、ニュージーランドのカウリの巨木。第二弾は、アメリカ西海岸の世界一樹高のレッドウッド(センペルセコイア)・世界一太いジャイアントセコイア・世界一長老のブルックスコーンパインを報告しました。今回は、オーストラリア・タスマニア島の南極ブナ(ミナミブナ)の生態等について視察してきました。(2008年1月15~19日)

オーストラリア・タスマニア島は南極に近く、真夏(1月)であったが、目的地のCradle Mountain近くでは、夜間ジャンパーが必要なほど冷え込みます。タスマニアデビルでおなじみの島です。実際にはデビルと会うことは困難ですが、有袋類のワラビーやウォンバットは夕方になるとホテルロジの草叢などで普通に出会うことができます。

Dove Lake 周遊路周辺では、最近日本でもおなじみの *Boronia pilosa* などの灌木の花が満開でした。湖岸の一部に常緑のミナミブナを見ることができました。この島のミナミブナはほとんどが落葉ですが、この湖岸だけで見ることができました。



(Cradle Mountain と Dove Lake
Woolly Tea-tree の花が満開)



(ウォンバット：夕方になると出てくる)



(ミナミブナの新芽)



(ミナミブナ全景)